

ファーストペンギン通信

第41号
発行日
令和5年3月20日(月)
発行人
八王子実践中学校
中学部長 石川教史

八王子車人形学校アウトリーチ



令和5年3月15日(水)、西川古柳座の方々を本校にお招きして、三番叟(さんばそう)やフラメンコ舞踏を見せていただきました。また、生徒9名と先生4名が実際に車人形に触れ、その操作を体験することができました。家元の西川古柳さんの説明が詳しく力強くユーモア一杯で楽しかったです。

車人形とは

「ろくろ車」と言われる、前に二個、後ろに一個の車輪がついた箱型の車に腰掛け、一人の人形遣いが一体の人形を操る人

形芝居です。

西川古柳座

江戸時代の終わりごろ、初代西川古柳が考案し、神楽師(神事芸能を専業とする人)を中心に広まり、人々の娯楽として親しまれました。現在は五代目が継承されています。

伝統的な人形芝居を継承するとともに、新たな車人形を考案したり、数々の衣装や豊富な用具を保有し、改良も加えています。日本各地はもちろん諸外国でも、公演を通じて日本文化・芸術を発信しています。

三番叟 さんばそう

人形劇の幕開きに演じられる演目です。正月などに演じられることが多くめでたい出し物と思われていますが、本当の意味は、神様が鈴を鳴らし、舞台を踏み込むことで邪気を払い、場を清めることなのだそうです。

人形操作体験



家元の演技の前に、私たちが体験しました。人形の右手は自分の右手で操作できますが、左手で人形の体を支え、かつ頭と左手の操作をします。これはかなり難しいです。



でも、「泣いてみよう」「笑ってみよう」「怒ってみよう」の指示で人形を動かします。その様子に観客は大笑いでした。



東海道中膝栗毛

おなじみ「やじさん」「きたさん」の旅行記です。やじさんが災難に合い、死んだとってしまう場面を演じてくれました。解説が詳しかったので人形に感情移入でき、その動きの意味がよく伝わってきました。皆の目がやじさん人形にくぎ付けになったのです。



フラメンコ

伝統的な人形の操り方を大きく変え、もっと自由に操れるようにした人形にスペインのダンスを踊らせてくれました。観客は、繊細でありながら力強いその動きに魅了されました。固定観念を打破することで生まれた演目だそうです。



車人形三座競演

探究授業で興味を持った人に朗報です。来る
2023年 6月3日(土)、4日(日)
開場:13:30 開演:14:00
八王子市芸術文化会館
いちようホール大ホールにて
現存する車人形の3つの座が一同に会して、それぞれの芸を披露してくれます。もちろん、西川古柳座も出演します。